

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	准教授	今瀬 政司
最終学歴	学 位	専門分野
法政大学経営学部経営学科	学士	経営・経済・社会・政治学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

学生の自発力・自主性・自律性を大事にして、その力を伸ばすように努めるとともに、学生の歩みが立ち往生したり、道に迷ったりした際のセーフティネットを常に張って教育を行う。

(計画)

担当科目として、地域振興論、非営利組織論、地域コミュニティ論、地域ビジネス特講ⅡⅢ、基礎演習ⅠⅡ、総合演習ⅠⅡ、専門演習ⅠⅡを実施する。

学生がいつでも気軽に講義、進路、生活、社会・地域活動等の悩みを相談できるような雰囲気作りを行い、できる限り時間を取り、じっくり対応する。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

地域振興論、非営利組織論、地域ビジネス特講Ⅱ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ

(後期)

地域コミュニティ論、地域ビジネス特講Ⅲ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

○教育方法の実践

◇地域振興論、非営利組織論、地域ビジネス特講Ⅱ・Ⅲ、地域コミュニティ論

- ・学生が授業で学んだこと（特に口頭説明）を自分流にしっかりとメモ（ノート）を取り、整理をして、自身の言葉で文章等に表現し伝える能力と習慣を身につけることに重点を置いた。
- ・レポート課題は、毎回授業、授業期間中、期末の3つに分けて課して、日々地道に復習する習慣づくりを行い、しっかり頭に残って今後に活かせるように工夫に努めた。
- ・第1回目の授業で、「授業の内容・進め方」「レポート課題（期中と期末）」「成績評価方法（課題別の評価点、欠席・遅刻等の減点、総合評価の加減点）」等について、具体的かつ詳細に説明を行い、学生との共有化を図った。
- ・毎回の授業終了時に、学びの理解度、学びを深めたい点や分からなかった点、学生自身の考え、授業の進め方への感想等に関するミニレポートを提出してもらい、次の授業で回答や学びの深掘りを行うと共に、授業の進め方の改善・工夫を毎回行った。
- ・授業の進め方について、毎回の授業で学生に出してもらった感想・意見等（難しいか簡単か、早いか遅いか、板書の書き方、スライド・WEB・写真・動画等の使い方、私語・内職対応等）は一人一人非常に多種多様で正反対の意見等もあったが、できる限りすべてに応えられるようにバランスを取りながら改善・工夫に毎回努めた。

◇専門演習Ⅰ・Ⅱ（3年生ゼミ）

- ・前期は、テキストをもとにした基礎的な知識・ノウハウの学習に重点を置いて、レポート作成、発表プレゼンテーション、ディスカッション等を行った。

- ・後期は、演習テーマ「大学とNPO・企業・行政等の協働による地域活性化」について、ゼミ生全員一人一人が、独自プロジェクトの企画書を立案・作成した上で、調査研究や実践的な活動を行い、中間卒業論文（6,000字以上）を作成し、合同ゼミ発表会で発表した。
- ・「第1回グランパス・ビジネスコンテスト in 愛知東邦大学」に臨んだ一部ゼミ生たちは、ビジネスプランの内容改善やプレゼンテーションの練習を演習授業内外で繰り返し行い、優勝した。

◇総合演習Ⅰ・Ⅱ（2年生ゼミ）

- ・演習テーマ「人と地域を大切にする経営～ホワイトとブラックを見抜く力～」のもと、ゼミ生全員一人一人が具体的な企業事例を調査・分析して（定性・定量）、レポート作成、学外実習、発表プレゼンテーション、ディスカッション、スライド作成等を行いながら、実社会で役立つ知識・ノウハウを身につけることに重点を置いた。
- ・前期は、テキストをもとにして具体的な企業の定性分析の知識・ノウハウを主に学習して、課題を行った。また、後期にその成果を合同ゼミ発表会で発表した。
- ・後期は、学外実習として日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ2019」に参加・交流して多種多様な企業の研究課題を行った。企業の定量分析の知識・ノウハウを学習した上で自ら興味のある企業の研究課題を行った。

◇基礎演習Ⅰ・Ⅱ（1年生ゼミ）

- ・全演習（ゼミ）共通のシラバスに基づいて、前期と後期の各回で課された学習と課題を行った。
- ・前期は、基礎的な教養学習を中心に行った。後期は、課題解決型学習を中心に行った。
- ・後期の前半は、ゼミ生がチームを組んで独自の課題テーマを設定して調査を行い、ポスターを作成して、大学祭で展示を行った。
- ・後期の後半は、ゼミ生全員一人一人が課題解決型の独自学習レポート（各4,000字以上）を作成して、プレゼンテーションやディスカッション等を行った。全ゼミ生のレポートの中から代表作を選定して、合同ゼミ発表会で発表を行った。

○作成した教科書・教材

- ・各授業において、今瀬のこれまでの「研究」と「教育」と「実践活動」それぞれの論文・報告書・レポート・WEB、今瀬撮影・編集の写真や動画、今瀬研究室ホームページなどを補助教材として使用した。使用に当たっては、学生に分かりやすいように編集してスライド作成等を行った。
- ・専門演習Ⅰ・Ⅱ、総合演習Ⅰ・Ⅱ、基礎演習Ⅰ・Ⅱでは、ゼミ生たちの学習・研究・実践活動等の成果を今瀬政司研究室ホームページ（<http://sicnpo.jp/imase-aichi-toho/>）に随時掲載して情報発信を行った。また、その掲載した成果情報を活用して、各演習内のゼミ生同士、あるいは学年を越えた演習ゼミ生間の学び合いや相互刺激を図った。

○自己評価

- ・本年度4月に本学に着任して、前期の各授業では、当初、前任校（長岡大学、京都経済短期大学）とほぼ同じ進め方等をベースに授業を行ったが、途中から、本学学生たちの学習状況・ニーズ等や本学の教育方法等を踏まえて、毎回、授業の進め方等を変えて改善・工夫に努めた。
- ・後期は、前期の反省点と良かった点をできる限り活かすように努めて、授業の進め方等を大幅に変えて行った。また、後期の授業期間中、各授業で毎回終了時に、全学生一人一人から授業の進め方や内容、理解度等への感想・意見をミニレポートで前期以上に詳細に聞き、改善・工夫を地

道に繰り返した。そうしたことで前期に比べると後期は学生の学習反応が向上したと思われる。

II 研究活動

○研究課題

《研究課題 1》 地域イノベーションと新産業創出に係る研究

《研究課題 2》 次代の地域創生に係る研究

○目標・計画

(目標)

《研究課題 1》

市民・非営利セクターが地域イノベーションを起こし、新産業の「苗床機能」を果たすようなプロセスにおいて、組織間の「協働」についての現状、課題、あり方を論ずる。

《研究課題 2》

地域創生のこれまでの取組みと現状・課題を明らかにした上で、これからの時代に求められる地域創生のあり方を論ずる。

(計画)

《研究課題 1》

これまでの研究成果を踏まえ、更なる発展的研究として、文献調査・実地調査等を実施する。研究成果として、英文論文「"Collaboration" with company and government by citizen / non-profit sector important for regional innovation and creation of new industries」を国際学会年次大会（22nd Uddevalla Symposium 2019、イタリア）等で発表・発行する。

《研究課題 2》

これまでの研究成果を踏まえ、更なる発展的研究として、文献調査・実地調査等を実施する。また、地域活性学会、日本NPO学会等の諸学会やNPO・企業・行政機関等に所属する研究者や実践家等と連携するなどして研究内容を深めていく。

研究成果を地域活性学会第11回研究大会（長崎県大村市）等で発表・発行する。

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・ 橋本行史編著『地方創生 -新たなモデルを目指して-』（株）創成社、2020年3月10日、
今瀬政司「第8章 希望を切り拓く次代の地域創生」pp.186-217、ISBN:978-4-7944-3206-3（共著書籍、単著論文）《2019年度研究課題2成果》
- ・ Editor: Irene Bernhard, "Uddevalla Symposium 2019: Unlocking the Potential of Regions Through Entrepreneurship and Innovation (Revised papers first presented at the 22nd Uddevalla Symposium, 27-29 June, 2019, L' Aquila, Italy)", University West, School of Business, Economics and IT, SE-461 86 Trollhattan, Sweden, December 2019, ISBN : 978-91-88847-40-9, ISSN : 2002-6188, E-ISSN : 2002-6196
Masashi Imase, "Collaboration" with Company and Government by Citizen/Non-Profit Sector Important for Regional Innovation and Creation of New Industries", pp.217-234（共著書籍、単著論文、英文、査読あり）《2019年度研究課題1成果》
- ・ Editor: Irène Bernhard, "UDDEVALLA SYMPOSIUM 2018: Diversity, Innovation, Entrepreneurship - Regional, Urban, National and International Perspectives (Revised papers presented at the 21st Uddevalla Symposium, 14-16 June, 2018, Lulea, Sweden)",

University West, School of Business, Economics and IT, SE-461 86 Trollhattan, Sweden, January 2019, ISBN:978-91-87531-11-9, ISSN: 2002-6188

Masashi Imase, "As an element of the regional innovation cluster, the citizen/non-profit sector that fulfil the "seedbed function" of the new industry", pp.207-223 (共著書籍、単著論文、英文、査読あり)

- Editor: Irène Bernhard, "Uddevalla Symposium 2017: Innovation, Entrepreneurship and Industrial Dynamics in Internationalized Regional Economies (Revised papers first presented at the 20th Uddevalla Symposium, 15-17 June, 2017, Trollhattan, Sweden)", University West, School of Business, Economics and IT, SE-461 86 Trollhattan, Sweden, January 2018, ISBN: 978-91-87531-61-3

Masashi Imase, "Regional factors in which geographical concentration of new industries and mature industries is created - Comparative of Tsubame city & Sanjo city's metal processing industry and Okinawa prefecture's traditional craft industry -", pp.309-326 (共著書籍、単著論文、英文、査読あり)

- 伊藤道雄、今瀬政司、石山民子、白幡利雄、土井利幸、長畑誠、根本悦子、松尾沢子、野口歩『アジアの共生社会を紡ぐ日本の国際協力NGO～私たちが訴えたいこと、共有したいこと～』(English version) "Japanese International NGOs Working Towards a Symbiotic Society in Asia - Our Experiences and Appeals -", 「アジアの未来への展望」NGO協議会、2015年3月 (共著)
- 坂本光司編著『人に喜ばれる仕事をしよう ～感動、感激、感謝される会社の作り方～』(株)WAVE出版、2014年7月、ISBN: 9784872906776、
今瀬政司「2章 三陸の未来と笑顔をつなぐ「おらが鉄道」(三陸鉄道)」, pp.184-202 (共著書籍、単著論文)

(学術論文)

- 今瀬政司「日本と違う沖縄のいま ～本土から沖縄に移された米軍基地～」市民活動情報センター(科学研究費補助金指定研究機関)『市民活動情報センターニュースレター2016年3号』2016年12月
- 今瀬政司「日本と違う沖縄のいま ～嘉手納基地と国策のまちづくり～」市民活動情報センター(科学研究費補助金指定研究機関)『市民活動情報センターニュースレター2016年2号』2016年10月
- 今瀬政司「日本と違う沖縄のいま～東村高江 米軍ヘリパッド建設問題～」市民活動情報センター(科学研究費補助金指定研究機関)『市民活動情報センターニュースレター2016年1号』2016年9月
- 今瀬政司「熊本地震の被災と支援 ～発災1ヶ月の現状・課題～」京都経済短期大学『京都経済短期大学論集 第24巻第1号』2016年7月、pp.71-85 (査読あり)
- 今瀬政司「実践的教育・研究「今瀬ゼミ：とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」-地域を支える「裏方」と必要性からの「協働」-」長岡大学『研究論叢 第13号』2015年7月、pp.45-50 (査読あり)
- 今瀬政司「東日本大震災における「情報の流れ」と民間支援の実態から学ぶ教訓(事例：発災直後の塩竈市浦戸諸島)」日本NPO学会『東日本大震災における民間支援の軌跡と動向調査 2012年度研究報告(タケダ・いのちくらし再生プログラム)』2012年12月、pp.1-12
- 今瀬政司「おいしくて、身体にやさしく、人に優しい「ぱん食店 こさり」」法政大学大学院中小企業研究所『中堅・中小企業の感動商品や感動サービスに関する調査研究報告書(2012年度)』2012年12月、pp.56-58

(学会発表)

- ・今瀬政司「"Collaboration" with company and government by citizen / non-profit sector important for regional innovation and creation of new industries (Revised)」地域活性学会『第 11 回研究大会』長崎県大村市コミュニティセンター、2019 年 9 月 15 日《2019 年度研究課題 1 成果》
- ・今瀬政司「市民公益ビジネスによる地域創生」地域活性学会『第 11 回研究大会』長崎県大村市コミュニティセンター、2019 年 9 月 14 日《2019 年度研究課題 2 成果》
- ・今瀬政司〔研究発表セッション座長〕地域活性学会『第 11 回研究大会』長崎県大村市コミュニティセンター、2019 年 9 月 14 日
- ・Masashi Imase, "Collaboration" with company and government by citizen / non-profit sector important for regional innovation and creation of new industries", *22st Uddevalla Symposium 2019* (国際学会), Gran Sasso Science Institute (GSSI), Viale F. Crispi, 7 67100 L'Aquila, Italy, 2019 年 6 月 29 日《2019 年度研究課題 1 成果》
- ・今瀬政司「地域イノベーションクラスターの投入資源と新産業の創出プロセス」京都経済短期大学経営・情報学会『2018 年度経営・情報学会研究報告会』同大学、2019 年 3 月 19 日
- ・今瀬政司「ツチノコ共和国建国 30 周年と下北山村の村づくり」地域活性学会『第 10 回研究大会』拓殖大学文京キャンパス、2018 年 9 月 16 日
- ・今瀬政司「Citizen / non-profit sector fulfilling "seedbed function" of new industry - Input resources of regional innovation clusters and the creation process of new industries - (Revised)」地域活性学会『第 10 回研究大会』拓殖大学文京キャンパス、2018 年 9 月 15 日
- ・今瀬政司「沖縄米軍基地問題と国策下の地域政策」地域活性学会『第 10 回研究大会』拓殖大学文京キャンパス、2018 年 9 月 15 日
- ・Masashi Imase, "As an element of the regional innovation cluster, the citizen / non-profit sector that fulfill the "seedbed function" of the new industry ", *21st Uddevalla Symposium 2018* (国際学会), Lulea University of Technology, 971 87 Lulea, Sweden、2018 年 6 月 14 日
- ・今瀬政司「災害時相互支援とリスクマネジメント」京都経済短期大学経営・情報学会『2017 年度経営・情報学会研究報告会』、同大学、2018 年 3 月 13 日
- ・今瀬政司「Regional factors in which geographical concentration of new industries and mature industries is created - Comparative of Tsubame city & Sanjo city's metal processing industry and Okinawa prefecture's traditional craft industry - (Revised)」地域活性学会『第 9 回研究大会』島根県立大学、2017 年 9 月 3 日
- ・今瀬政司「離島振興に係る研究報告」地域活性学会『第 9 回研究大会、離島振興部会』島根県立大学、2017 年 9 月 3 日
- ・今瀬政司〔地域活性セッション座長〕地域活性学会『第 9 回研究大会』島根県立大学、2017 年 9 月 3 日
- ・今瀬政司「NPO 等の災害時相互支援とリスクマネジメントの推進 -NPO 等リスクマネジメントに係るアンケート調査報告-」地域活性学会『第 9 回研究大会』島根県立大学、2017 年 9 月 2 日
- ・Masashi Imase, "Regional factors in which geographical concentration of new industries and mature industries is created - Comparative of Tsubame city & Sanjo city's metal

processing industry and Okinawa prefecture's traditional craft industry -", 20th Uddevalla Symposium 2017 (国際学会), University West, Trollhattan, Sweden, 2017 年 6 月 16 日

- ・今瀬政司「近年の災害と支援活動の特徴」京都経済短期大学経営・情報学会『2016 年度経営・情報学会研究報告会』同大学、2017 年 3 月 17 日
- ・今瀬政司「協働による神津島創生 ～“もったいない資源”の繋ぎ合わせからの創生～」地域活性学会『第 8 回研究大会』長野県小布施町役場周辺会場、2016 年 9 月 4 日
- ・今瀬政司「熊本地震の被災・支援と地域創生」地域活性学会『第 8 回研究大会』長野県小布施町役場周辺会場、2016 年 9 月 3 日
- ・今瀬政司〔復興支援セッション討論者〕日本 NPO 学会『第 18 回年次大会』同志社大学、2016 年 3 月 6 日
- ・今瀬政司「実践的研究「アジアの共生社会を紡ぐ日本の国際協力 NGO」」日本 NPO 学会『第 18 回年次大会』同志社大学、2016 年 3 月 5 日
- ・「人を大切にしよう共働経営 ～特定非営利活動法人生野共働の家「ぱん食店 こさり」～」人を大切にしよう経営学会『第 2 回全国大会』電気通信大学、2015 年 9 月 13 日
- ・今瀬政司「実践的教育・研究「今瀬ゼミ：とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」」地域活性学会『第 7 回研究大会』大手前大学、2015 年 9 月 5 日
- ・今瀬政司「離島の防災・情報対策」地域活性学会『第 7 回研究大会、離島振興部会第 3 回部会「離島振興における今日的課題 ～観光と防災・情報の視点から～」』大手前大学、2015 年 9 月 5 日
- ・今瀬政司〔E 6 セッション「様々な非営利組織の実践」モデレーター〕日本 NPO 学会『第 17 回年次大会』武蔵大学江古田キャンパス、2015 年 3 月 15 日
- ・今瀬政司「アジアにおける市民主体の歴史的町並み保存ネットワークの軌跡と展望」地域活性学会『第 6 回研究大会』東京農業大学オホーツクキャンパス、2014 年 7 月 5 日
- ・今瀬政司〔離島振興部会シンポジウム「“しま資源”を活かした離島の活性化」コーディネーター〕地域活性学会『第 6 回研究大会』東京農業大学オホーツクキャンパス、2014 年 7 月 5 日
- ・今瀬政司「東日本大震災における「情報の流れ」と民間支援の実態から学ぶ教訓（事例：発災直後の塩竈市浦戸諸島）」日本 NPO 学会『第 3 回震災特別フォーラム』（招待講演）福島県いわき市、2012 年 9 月

(特許)

- ・特になし

(その他)

- ・今瀬政司「シンポジウム報告「愛知東邦大学地域創造研究所シンポジウム 真の「働き方改革」とは何か-人を大切にする経営を考える-」」愛知東邦大学地域創造研究所『所報 25 号』2020 年 3 月
- ・今瀬政司「人を大切にする経営と働き方のための人材育成」人を大切にする経営学会『人を大切にする経営学会メルマガ第 263 号』2020 年 2 月 3 日
- ・今瀬政司「復興をめざす歴史的建造物のまちイタリア「ラクイラ」」公益社団法人奈良まちづくりセンター『町家くん通信 2019 年 9 月号』2019 年 9 月、P. 1-2 《2019 年度研究課題 2 成果》
- ・地域活性学会 10 周年記念誌編集委員会（今瀬政司、白石史郎、御園慎一郎、鶴飼宏成）『地域活性の時代 -地域活性学会 10 周年記念誌-』地域活性学会、176 頁、2019 年 3 月 31 日（共著）
- ・今瀬政司「NPO 法 20 周年と NPO の社会的存在意義」公益社団法人奈良まちづくりセンター『町家くん通信 2019 年 1 月号』2019 年 1 月、P. 1-2

- ・京都府／市民活動情報センター（今瀬政司）『NPO等リスクマネジメントに係るアンケート調査報告書』2017年3月（単著）
- ・今瀬政司「地域活性、地域づくりへの向き合い方」地域活性学会『地域活性学会ニュースレター No.174』2016年10月
- ・今瀬政司監修・今瀬政司ゼミナール『とちお祭への裏方参画と調査・情報発信 報告書 ～長岡・栃尾地域を元気にするために～』長岡大学 今瀬政司ゼミナール、2015年3月
- ・茨城県／市民活動情報センター（今瀬政司）『茨城県協働推進マニュアル ～協働ハンドブック～』2013年3月（共著）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・特になし

○所属学会

- ・地域活性学会（理事）
- ・日本NPO学会（元理事）
- ・人を大切にする経営学会（会員）
- ・日本離島研究会（幹事）

○自己評価

- ・2019年度の研究課題1『地域イノベーションと新産業創出に係る研究』では、著書1件（英文、国際学会出版）と学会発表2件（うち1件は国際学会）の研究成果を得た。研究課題2『次代の地域創生に係る研究』では、著書1件、学会発表1件、その他1件の研究成果を得た。また、その他2件の研究成果を得た。そうしたことから、期初の研究目標・計画は達成できたと考える。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

（目標）

本学の教育・研究・社会貢献・事務等の大学運営全般に係る仕組みや進め方等を早期に理解した上で、担当学務等を適切に実施する。

（計画）

担当学務として、地域創造研究所長・副所長、地域連携全学委員会（地域連携センター運営委員会含む）・委員、地域創造研究所運営特別委員会・委員、1年生学年担当・リーダーを担う。

○学内委員等

地域連携委員会委員、地域創造研究所運営委員会委員

◇地域創造研究所副所長・運営委員会委員としての主な業務報告

- ・地域創造研究所主催のシンポジウム『真の「働き方改革」とは何か－人を大切にする経営を考える－』において、企画・準備・運営・報告作成等を統括担当として全面的に担った。シンポジウムでは、これまでの今瀬の人的ネットワークと研究実績等をもとにして、企画立案し、「人を大切にする経営学会」等の後援を得て、学会の「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞の受賞企業（中小企業庁長官賞：沢根スプリング(株)、審査員特別賞：(株)ネオレックス）を外部講師に迎えて、約80名の参加者を得て開催した。
- ・「中部産業史研究部会」（部会事務局の森靖雄先生を中心に研究会・見学会開催、『下出義雄資料集』編集、『東邦商業学校新聞』復刊等を実施）において、部会主査として調整役等を主に担った。

- ・「地域ブランディング研究部会」の研究部会（兼定例研究会）に参加して、共同研究者として学生のサポート役等を担った。

◇地域連携委員会（地域連携センター）委員としての主な業務報告

- ・売木村（長野県）の地域人材育成と地域活性化、ならびに本学の教育と地域貢献を目的にして、2020 年度に「売木村・愛知東邦大学 学び合い協働事業」を共催実施すべく、企画書の作成・提案・学外内調整等を統括担当として全面的に担った。売木村から本学への委託契約事業として行うもので、「売木人財発掘・学び合いプロジェクト」（専門プロジェクト）、「愛知東邦大学公開講座」、「売木村寄附講座」（地域振興論）の3つの事業を行うこととなった。また、学び合い協働事業の企画提案を契機に、売木村と本学の間で包括連携協定を締結することとなった。
- ・地域連携委員会主催の「地域と連携した授業・活動報告会」や「第1回グランパス・ビジネスコンテスト in 愛知東邦大学」等において、企画・運営を役割分担して担った。

◇1年生学年担当・リーダーとしての主な業務報告

- ・深谷教授の指導のもと、基礎演習Ⅰ・Ⅱ（全ゼミ共通シラバス）の企画・運営を担った。

◇その他、主な担当業務

- ・大学再編準備室経営学部分科会・初年次教育ワーキンググループで企画検討を行った。
- ・オープンキャンパスで模擬授業を2回担当した（2019. 8. 23、2019. 11. 16）。
- ・入学試験の各日程で試験監督を担当した。
- ・教育懇談会の各日程で個人面談を担当した（2019. 5. 18、2019. 9. 21）。
- ・高大連携授業を担当した（2020. 2. 12）。

○自己評価

- ・地域創造研究所副所長・運営委員会委員としては、シンポジウム『真の「働き方改革」とは何か－人を大切に作る経営を考える－』を独自に企画立案して開催し、約 80 名の参加者から総じて高い評価を得ることができた。
- ・地域連携委員会（地域連携センター）委員としては、「売木村・愛知東邦大学 学び合い協働事業」（委託契約事業）を本学の新規プロジェクトとして独自に企画立案して、2020 年度に実施予定とすることができた。
- ・1年生学年担当においては、本学の基礎演習の進め方等を理解することなどが中心となり、リーダーとしては十分な役割を果たせず、深谷教授の指導のもと行った。

IV 社会貢献

○目標・計画

（目標）

国内外の様々な分野、様々な地域において、社会・地域貢献の取組みを継続的に行っていく。
名古屋地域における行政・NPO・企業・大学等との連携を推進していく。

（計画）

社会における活動として、特定非営利活動法人市民活動情報センター代表理事、特定非営利活動法人ボランティアネイバーズ評議員、公益社団法人奈良まちづくりセンター理事、京都府「災害時連携NPO等ネットワーク」理事・実行委員、一般社団法人大阪市公共サービス政策センター

理事、地域活性学会役員（理事、「広報・交流委員会」副委員長、「将来構想特別委員会」委員、「離島振興部会」副部会長・部会事務局長）、日本離島研究会幹事等の役職を担う

○学会活動等

◇地域活性学会 理事

- ・理事、広報・交流委員会副委員長、離島振興部会副部会長・部会事務局長、将来像構想特別委員会委員、第11回研究大会実行委員会実行委員として、学会活動を行った。（過去に、10周年記念誌編集委員会編集長、研究推進委員会委員、第8回研究大会実行委員会実行委員、地域活性学会研究誌「地域活性研究」査読者等を担っている。）

◇日本NPO学会 会員

- ・会員として学会活動を行った。（過去に、理事（3期任期満了退任）、選挙管理委員会委員、学会会則ワーキンググループ委員、第15回年次大会運営委員会委員、震災特別プロジェクト「東日本大震災における民間支援の軌跡と動向調査」運営委員会幹事等を担っている。）

◇日本離島研究会 幹事

- ・家島研究会を開催して現地視察（兵庫県姫路市家島）を行った。

◇人を大切にする経営学会 会員

- ・中部支部第6回公開フォーラム参加、愛知東邦大学「地域創造研究所シンポジウム」と市民活動情報センター「教育創生フォーラム」への学会後援調整、学会メルマガ掲載レポート作成等を行った。

◇国際学会「Uddevalla Symposium」(Sweden) 査読者

- ・国際出版社「Edward Elgar Publishing」の書籍『Regional Innovation and Entrepreneurship - How to Unlock them?』に掲載候補となった各国研究者の英文論文の査読を担った（2019-20年度）。
- ・国際出版社「Edward Elgar Publishing」の書籍『Diversity, Innovation And Clusters: Spatial Perspectives (New Horizons in Regional Science series)』に掲載候補となった各国研究者の英文論文の査読を担った（2018-2019年度）。

○地域連携・社会貢献等

◇主な地域連携事業

- ・特定非営利活動法人市民活動情報センター主催、本学後援による地域連携事業として、「教育創生フォーラム -人が幸せになる学びと教育の創生をめざして-」の企画・運営等を担った。登壇者は、坂本光司（人を大切にする経営学会会長）、石橋 晶（文部科学省/文化庁所長）、加藤明彦（愛知中小企業家同友会会長）、今瀬政司。後援は、文部科学省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県、名古屋市、愛知東邦大学、人を大切にする経営学会。2020年3月7日に開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により延期（2020年10月31日）となった。

◇役員・委員等とその各種活動

- ・特定非営利活動法人市民活動情報センター 代表理事
- ・文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」における名古屋市立大学「進化型実務家教員養成プログラム」多職種連携PBL演習モニター
- ・京都府「災害時連携NPO等ネットワーク」理事・実行委員
- ・一般社団法人大阪市公共サービス政策センター 理事
- ・公益社団法人奈良まちづくりセンター 理事
- ・特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ 評議員
- ・一般社団法人中部経済連合会「企業防災委員会」委員・「広域連携・地域づくり委員会」委員

◇講演

- ・愛知東邦大学地域創造研究所シンポジウム『「真の「働き方改革」とは何か－人を大切にする経営を考える－』『「働き方改革」とこれからの企業経営のあるべき姿』講演（2020.2.8）
- ・愛知県立横須賀高等学校「第8回ホームカミングデー・ミニ講義」講演（2019.11.2）

◇社会貢献等

- ・長崎市ラグビーキャンプ誘致委員会「YOKABAI 合唱隊 1000 人合唱：ラグビースコットランドチームに長崎おもてなし企画」応援参加・取材（2019.9.12）。読売新聞朝刊 2019.9.13 付「ラグビー WORLD CUP 2019 市民ら歓迎の大合唱 スコットランド代表と交流」記事掲載
- ・愛知中小企業家同友会「共育委員会オープン講座」ゲスト参加（2020.12.10）
- ・公益社団法人日本中国友好協会『日本と中国』（2020.1.1号）今瀬政司「意見広告「祝 協会創立 70 周年」」／『日本と中国』（2019.9.1号）今瀬政司「意見広告「祝 日中青少年交流推進年、日中の若者の交流を応援します」」
- ・尼崎市「協働契約ひな型」「市民提案制度・協働契約活用ガイド」等の策定に係る相談アドバイス
- ・名古屋市「令和2年度名古屋市市民活動促進基本方針策定有識者懇談会」（仮）委員就任の調整
- ・瀬戸市「令和2年度まちの課題解決応援プログラム審査会」審査員就任の調整
- ・名古屋市名東区との意見交換、名東区民まつりへの参加等
- ・「民間NPO支援センター・将来を展望する会」（通称：CEO 会議）での各種活動
- ・民間公益活動促進のための休眠預金等活用に係る研究と活動（資金分配団体公募説明会参加等）

○自己評価

- ・学会活動等では、地域活性学会において、理事・副委員長・部会事務局長等として、学会運営の中心的役割を担って貢献できた。国際学会「Uddevalla Symposium」(Sweden)において、査読者として、各国研究者の英文論文の査読2件を担って貢献できた。
- ・地域連携・社会貢献等では、NPO 法人市民活動情報センターと本学の連携事業「教育創生フォーラム」を文部科学省の協力（講演、後援）も得ながら企画・運営等を行って貢献できた。名古屋市立大学の「進化型実務家教員養成プログラム」（文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」）で多職種連携PBL演習モニターを担って貢献できた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

教育、研究、大学運営、社会貢献の各取組みをリンクさせて、成果を相互に活かし合い、相乗効果を発揮できるように努めた。

VI 総括

- ・本年度4月に本学（経営学部地域ビジネス学科）に准教授として着任して、本学の大学運営全般に係る仕組みや進め方等をできる限り早期に理解することに努めた。その上で、教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献それぞれの取組みにおいて、期初の目標・計画は一定程度達成できたと考える。次年度に向けて成果面と反省面ともに活かしながら更なる貢献に努めたい。

以 上